

川崎異業種研究会（略称：川異研）は、昭和62年7月に設立した当所会員企業から集まった異業種交流のグループです。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

### 10月定例会(国内視察会)

当研究会では毎年10月に、国内と国外視察会を交互に実施している。今年度は国内視察の年で、10月13日(金)～14日(土)会員15名の参加を得て、広島県呉市の視察会を行った。

#### 【13日(金)】

羽田空港から広島に向かった。目指す呉市は広島空港から山陽自動車道をリムジンバスで約1時間の場所に位置している。呉市内に入ると、元は帝国海軍、今では海上自衛隊の拠点となっているだけに、臨海工業都市の重厚感と迫力のある雰囲気が感じられた。

昼食は今回の宿でもある、呉阪急ホテルにて護衛艦「うみぎり」の隊員が食べているカレーを再現したものをいただいた。最初の視察地、海上自衛隊「呉地方総監部」では、広報係の増田氏より、海上自衛隊の歴史や役割について説明を受けた。特に第2次大戦末期、米国は日本に対して「飢餓作戦」と呼ばれる海上輸送路を断絶する作戦で、多量な「機雷」を仕掛けた。その数は1万数千発にもものぼり、当時物資の輸送を海路に頼っていた日本は大きなダメージを受けることになった。

現在でも年に数発が発見され処理されている。危険な機雷を取り除くことから日本の戦後復興作業は始まった。今では海上自衛隊の掃海技術は世界最高水準にな



海上自衛隊について学ぶ

り、重要海峡に仕掛けられた機雷処理のために「機雷掃海艇」による排除作業が大きな国際貢献へと結びついているとのことだった。



呉地方総監部前にて(広報係増田氏と)

続いて今年の3月に就役したばかりの海上自衛隊最新鋭の護衛艦「かが」の視察を行った。想像以上に広大な甲板(全長248メートル・最大幅38メートル)や格納庫には一同驚きの声を上げていた。



護衛艦「かが」の広大な格納庫

護衛艦「かが」の上甲板にて



(2Pに続きます)

加入のお問い合わせは  
事務局：麻生支所 TEL 044-952-1191

また大変光栄なことに、海上自衛隊第4護衛隊群司令海将補の福田達也氏、「護衛艦かが」艦長の1等海佐の遠藤昭彦氏がお見えになり、ご挨拶をいただいた。また遠藤艦長自ら操舵室や、装備についてご案内をいただき、一同貴重な体験となった。

その後は停泊中の潜水艦の甲板にも上がり、今にも滑り落ちそうな思いで先端まで行き、歓声をあげていた。



護衛艦「かが」操舵室



福田群司令 海将補(右)と遠藤艦長(左)



展示室



停泊中の潜水艦の甲板上に上がりました



そして夜はお楽しみの懇親会

#### 【14日(土)】

2日目は第1術科学校(旧海軍兵学校跡地)を見学した。こちらは、海上自衛隊の教育の場であり、明治21年(1888年)海軍兵学校が東京の築地からここ江田島に移って以来、多くの海軍士官を輩出してきた。現在は、貴重な資料の



第1術科学校

保管や展示、海軍の良さを伝承しつつ、海上自衛隊の幹部自衛官や海曹士自衛官の育成の場となっている。

案内は海上自衛隊OBの方で軽妙な口調と話術で約1時間半の行程を楽しませていただいた。



説明を興味深く聞く参加者

視察の締めくくりは「呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)」と「海上自衛隊呉史料館」であった。大和ミュージアムにはその名の通り、実物の10分の1サイズの戦艦大和の模型が展示されている。またすぐ隣には海上自衛隊で就役していた実物の潜水艦「あきしお」がそのままの姿で展示されている。その艦内では海上自衛隊の歴史や装備品、機雷の脅威と掃海艇の活躍など、実物・模型・絵図や映像などを用いて紹介されていた。



実物の10分の1サイズの戦艦大和の模型



海上自衛隊呉史料館「あきしお」

予定の視察を終了し、広島空港を発ち、羽田空港に予定通り到着し解散した。

### 10月分科会

10月5日(木)、午後6時30分より中原市民館第1会議室にて、10月分科会を開催した。会員9名、和光大学生6名の参加を得た。

今回のテーマは「身近な人の終活について」である。講師には、当会会員、株式会社神奈川こすもす 野尻成久氏を迎えた。身近な人が亡くなった時、様々な問題が起きるということを、具体例を交えながら教えていただき、どのように避ければよいかをわかりやすくご講義いただいた。その後行われた懇親会では、葬儀や相続のトラブルについて、より詳しく話をいただいた。葬儀サービスを扱う同社ならではの貴重な講演であった。



終活。もしもというときを考える